ＪＣＩアワード受賞者インタビュー

【ご担当者インタビュー】
担当者： 2009年度　（社）つくば青年会議所　環境委員会　委員長　七野　悟

質問１．エントリーしようと思ったきっかけは何ですか？

２００６年ＡＳＰＡＣチュンリー大会のＪＣＩアワードセレモニーに参加し、ＪＣＩアワードを始めて知りました。
アワードセレモニーでの各国の受賞者の晴々とした表情を垣間見て、自分もこのステージに登壇してみたいと思いました。
自分がこの先、開催する事業は世界中のＪＣＩメンバーにすばらしいと評価される事業を行おうと思いました。

質問２．何が１番苦労しましたか？

写真のセレクトです。
ＪＣＩアワードの環境部門では２０枚の写真を添付します。
それらの写真も参加メンバーへの貢献、組織への貢献、会員参加率、計画、実施というようにテーマに沿った写真をセレクトしなければいけません。
あらかじめテーマを把握しておいて写真撮影をすることも必要だと感じました。

質問３．アワードにエントリーして担当者として何か変化がありましたか？

事業に対する考え方が変わりました。
事業を行って１番重要なことは、どれだけ地域に貢献できたか、ＬＯＭに貢献できたか、メンバーが成長できたかということが重要であり、これらの目的を出来る限り具体的にしておくことも重要だと感じました。
また、これらの目的が達成されたかどうかを調べる検証方法も事業を立案する段階で明確にしておく必要があると思いました。
①地域にある問題の調査、分析
②問題解決に向けた事業の立案、計画
③事業の開催
④事業の検証
⑤次の事業へ
新規事業だけでなく、継続事業であってもこのようなステップを踏んで事業を組み立てることで、地域に本当に必要とされる、地域に貢献できる事業を行っていけるのではないかと思いました。

質問４．今後エントリーされる方メッセージをお願いします。

ＪＣＩアワードへのエントリーは決して簡単ではありません。英訳が必要ですし（自分は英語が苦手なので、ＬＯＭメンバーに依頼しました）、パソコンの技術？（写真にコメントを入れるだけですが、こちらも出来ないのでＬＯＭメンバーに依頼）も必要です。
しかし、エントリーをしたときには事業を行ったときと同じくらい大きな達成感を味わう事ができました。
自分達の行った事業と同じような事業が世界のどこかで行われ、その地域に貢献できる。そんな経験ができるかもしれないＪＣＩアワードに是非チャレンジしてください。皆様がチャレンジする際にはすばらしい講師と国際アカデミー委員会のメンバーがサポートをしてくれます。
まずは国際アカデミー委員会が開催するＪＣＩアワード簡単申請塾に参加しましょう。
きっとすばらしい経験ができると思います。

【理事長へのインタビュー】

理事長：　2009 年度　（社）つくば青年会議所　理事長　小久保　貴史

質問１．ＪＣＩアワードにエントリーして、ＬＯＭとしてどのような変化がありましたか？

事業を終えて改めて検証することが出来ました。またエントリーにあたり、資料作成の面からも良い研修の場となりました。 賞を頂いたことで、事業への自信と今後の活動に更なる意気込みを持つことが出来ました。携わった委員会や委員も自信をもって JC 運動に更に、前向きに取り組んで頂いております。また、委員会の間で事業に競って取り組むようになり、LOM に活気が出たと感じております。